

有鈴建が山神社社殿の修復寄進



山神社の社殿は、床部分が経年劣化のため痛みが激しくなってきたところから、法人役員会において度々「修復か、移転か」の議論がなされてきましたが、結論がでず継続審議になっていました。

そんな中、本年7月10日、有鈴建社主・鈴木敏彦氏が、会社の資料を用いて見事修復してくれました。鈴木氏の私財を投じたご寄進に対し、会員一同、心より感謝申し上げます。



蔵王通信

第9号

発行
NPO法人 蔵王鉱山の歴史を語り継ぐ会
山形県上山市蔵王字蔵王山 2843-1
発行責任者 川口 兼次
TEL.023-679-2211 FAX.679-2606
編集責任者 高橋 正之
山形県上山市金谷 530 TEL.023-679-2435

印刷所
有限会社 東洋企画印刷
山形県上山市四谷 2-1-46
TEL.023-673-1648 FAX.673-1646

さりげなく百万円

蔵王鉱山歴史資料館建設へ寄附

大学を卒業したら就職は蔵王鉱山と決めておりました。
経済界で有名な藤山愛一郎さんが社長なので、将来は大きく発展すると思っていたからです。
油坂を登り元山へ。
新婚生活は猿倉住宅。
僕の青春は、蔵王鉱山がすべてでした。
少ないですが――。

秋田市 間山 昭

感謝

30/6/30/8までのご報告
法人設立3年目に入っ
た会員の募集と「歴史資
料館」建設への寄付金募
集について、次の通りご
報告申し上げます。感謝の意を
表します。

寄付者ご氏名

秋田市 間山 昭様
神奈川県 齊藤 暢之様
上山市 蔵王猿倉観光協議会様

※おくれはながら「蔵王猿倉
観光協議会」として百万円入金
させていただきました。

会員氏名

北海道 川口 二郎様・川口とし子様
新潟県 熊谷 忍様
千葉県 渡辺 弘道様
東京都 石原 邦子様
神奈川県 神奈川 暢之様(新)

埼玉県 高橋 輝幸様
山形市 西野 哲様・西野 洋子様
川口 周治様・川口 たけ子様
旭岡 勝子様
木村 幹雄様・木村 久子様
秋山 峰広様
丹野 啓様
川口 兼次様・川口 京子様
川口 豊様
尾花沢市 東海林 恵中様
山辺町 佐藤 京一様
上山市 芳賀 高信様・芳賀 貴様
川口 長次郎様
川口 尚也様・川口 良子様
内海 清人様・内海 浩之様
佐藤 邦明様
枝松 直樹様
三澤 建二様
山川 季男様
今田 太加可様
高橋 正之様
佐藤 竹志様・佐藤 芳子様
佐藤 衣利子様
土屋 健一様・土屋 智弘様
篠原 政志様
原田 正男様
村山 利夫様
長谷部 佳明様

「蔵王鉱山の歴史を語り継ぐ会」 第2回通常総会を開催

「会員を100名に拡大、「歴史資料館」
の年度内「分離発注」を決議」

NPO(特定非営利活 常総会を開催しました。
動) 法人・蔵王鉱山の歴 同総会では、平成29
史を語り継ぐ会(以下、 年度活動報告、活動計
「語り継ぐ会」)は、平成 算書並びに平成30年度
30年6月7日(木)午後、 活動計画、活動予算(案)
蔵王猿倉レストハウスに 等が審議され、いずれ
おいて、正会員66名中、 も原案通り承認されま
会員20名(委任状提出38 した。
名)が出席し、第2回通



「七曲り」が昔のまま、残っています

平成30年度の活動の一つとし
て、「七曲り」を「歴史街道」と
して保存することを掲げていま
す。

その事業を具体化するため、本
年6月17日(日)、蔵王イベント
パークの草刈りボランティアに先
立ち、川口兼次理事長以下、理事
等5人が、仙人沢の七曲りの調査
を行いました。

その結果、蔵王ラインに架かっ
た橋の下流、猿倉側の対岸に写真
①の通り、
仙人沢に架
かっていた
橋の基礎部
分が残って
いました。
また橋のた
もとから斜
面を登る坂
道(七曲り)



写真①(昔架かっていた橋の基礎)



写真②(橋から斜面を登る道路)

イベントパークの 草刈り作業を実施

本年6月17日(日)、23日(土)
の二日間、NPO法人蔵王鉱山の歴
史を語り継ぐ会役員による蔵王猿
倉イベントパークの草刈りを行
いました。

17日は、土屋副会長、丹野、鈴木、
高橋各理事の4人が、草刈り機を
用いてサッカー場東側の斜面を刈
り、23日には、土屋副会長、長谷部、
結城両理事の3人の役員が同所の
残りを刈り、作業を終了しました。



蔵王鉱山は誰のもの

その八

赤旗から水商売へ

「県労評(山形県労働組合
評議会)に出来ないか、渡
辺三郎事務局長(後に衆
議院議員)から要請があっ
た。撤収作業も終わりが
けていたときでもあり、
私の気持ちはぐらついた。
会社に籍を置いたままな
ら、という条件で、組合員
もとしてくれた。そし
て約1年間、総評(日本労
働組合総評議会)の地方
オルグとして山形県労評
に専従することとなり、
県内の労働争議指導に走
り廻っていた。

会社は閉山後、「ニュー
蔵王観光株式会社」を創
立し、猿倉の職員アパー
トを改造して旅館業とし
てスタートを切った。しか
し、経営は案ではなかつた
ようである。

組合も「ニュー蔵王観光
労働組合」を結成し、上山
原勤所勤務の山口俊男氏
が委員長に就任し、対会
社との折衝に当たってい
た。

「川口さんが県労評に長
く勤めるなら、俺たちは
全員会社を退職する。蔵
王に戻ってやるなら一緒
に汗を流す」と山口委員長
からの悲壮な電話を受け
た。会社からの「休業提案」

を受けた結果の組合員全
員の総意だったらしい。
参った。真から迷った。労
働運動に生涯をかける決
意で県労評に――。

廃墟と化した製錬場を
歩いた。組合事務所のコン
クリートの基礎が目につ
く。従業員五百人、その家
族を含めると千人。アノ
賑やかさが浮かんてくる。
俺は戻る。そして、もう一
度、この地に灯りをつけて
見せる。組合員は喜んで
くれたが、会社はしぶし
ぶ復讐を認めた。

「イラッシャイませ」川
口にとっては最高に苦手
だった。しかし、この地に
骨を埋める決意は固まる
ばかりだった。

(かわべち)

あの人この人 訪問記

中川第二小学校で教鞭 葛谷 栄三先生

「スキーを履いて川に転落、大ピンチ。家族で見学した坊平のつじが忘れられない。息子・二行の彫刻が今も皆様を迎えてくれる。学校はオルガンだけ。父兄の寄付でピアノを購入。」

中川第二小学校と共に生きる(その2)

(3)冬が来た
連日うなりをたてて北風が吹える。児童たちは、スキーが雪の土手にひっかり、逆さになってフランクコになってしまった。下は、水が流れて両足はスキーともども土手に突き刺さり、どうしても起き上がれなくなってしまう。夕方近くまで雪の穴でぶら下がっていた。誰も助けに来てくれない。しかしその後なんとか全力を出し切りスキーを外し、川の中に立って雪の土手をやっと登り、ズブ濡れて学校に着いた。先生方は、「どうした、どうした。早くストープで乾かせ」と手伝ってくれたが、私は、この出来事は、教師として恥ずかしかったので、今日の番人」という彫刻が皆様を覚えてくれる。この記念碑の制作者は、「葛谷二行」である。一行は、彫刻の道



死んでいただろうと思う。(4)つじの初夏が来た。

坊平に山つづじを見に観光バスが50台以上も列を作って登って来る。バスから下車する人波で坊平が一杯に埋め尽くされる。芝生の中に咲くアズマ菊の薄紫色の花も美しい。日曜日、一行と妻の3人でつじ見学を楽しんだのは、今でも忘れない。燃えるようなダイダイ色の花一面の坊平は、中丸山の下で輝く。一行もヨチヨチ歩いて見ていた。この坊平に、現在山の番人」という彫刻が皆様を覚えてくれる。この記念碑の制作者は、「葛谷二行」である。一行は、彫刻の道

役員紹介

理事 中川 義博さん

義博さんは、中川第二小学校、中川中学校、上山高校で学び、郵便局勤務を長年勤め上げて6年前に退職。中川中学校では、バスケットボールで活躍。プレイぶりを部活仲間が賞賛。現在は、地区役員、地区の神社役員、バ



ご一家は、製錬場のアパートに住み、閉山後、一番最後まで鉱山にとどまる。鉱山暮らしの時は、峯田商店の旦那さんが店を開き、郵便局職員が預金集めの拠点に。父君は、吉之助さん。閉山の翌年39年4月に他界。川口理事長以下鉱山関係者多数の見送りを受ける。母君・はつ糸さんは、中川第二小学校用務員を閉校まで勤めた

にのめり込み、親父を超えようと努力した。坊平一面に彫刻を林立させ、世界の人々に見せたいと言っていた。その目標も達しないので、38歳の春他界した。平成5年4月5日が命日だ。夢半ばで他界した一行のため何か記念になるものを建てたいと思っていた時、アジア大会が坊平で開かれる事となり、坊平のマラソンコースの修復工事が行われた。時、永田上山市長から「二行君の彫刻を寄付してくれ」との話があったので、即答してお礼を申し上げた。土台は、宮城県よりダテカ

た。土台は、宮城県よりダテカ



「山の番人」は、輝きわたっている。建立場所も歌聖・齊藤茂吉の歌碑より20メートル北に位置し、観光客のカメラがシャッターを切っている。年に1回は必ず「山の番人」を拜んでくる。

(5)ピアノが欲しい。

我が校にはピアノが無い。古いオルガン一つあるだけだ。音楽科主任の仲野先生は、いつも気にしていた。児童たちもピアノが欲しいと言う声が多かった。しかし、高級なピアノを買うだけのお金がない。鉱山の全戸で少しずつ寄付金を出して

ペンで結ぶ、近況だより

◇桑原久仁美から
◆野地洋君へ◇

洋君お便りありがとうございます。宗子は群馬で元気で暮らしています。以前、電話をもらった時は本当にうれしかったです。

私は、高校を卒業して上山の旅館に調理見習で入社し、暫くして群馬県前橋市の割烹料亭に5年間料理修業に行ってきた。その後、上山の旅館に戻り55歳まで勤め上げ、退職したのち妻と息子の3人で店(じんや)を始めました。

妻とは前橋で結婚し、長女、長男を授かりました。店の方は、オープンしてから16年が過ぎましたが、同級生や鉱山の方、中川地区の方など、縁ある皆さんにお世話になり、大変ありがたく思っています。

父・仁也は、閉山の後、母と一緒に茂吉記念館の管理人を12年間勤め、その後旅館(村尾)の朝市を頼まれ、10年間やりました。

その父も平成元年75歳で、母・トキ子は平成10年80歳で、弟・哲也も平



蔵王通信

◇ご家族が訪問 川口理

事長が、「この夏、猿倉のレストハウスを鈴木バセンさんのお嬢さんと野地さんのご子息が訪れた」と話してくれました。お二人とも、製錬場跡地等の説明を聞き、昔を偲んで行ったそうです。

「資料館」が出来れば、「思い出」がもつとリアルに広く蘇るでしょう。期待したいです。

◇「鉱山の思い出」を寄稿

中川地区公民館から依頼を受け、「公民館だより・なかがわ」に「蔵王鉱山の思い出」のタイトルで記事を寄稿しています。「サムライ長屋」の出来事や山神様の祭り、製錬場周辺での遊びの様子など子供時代の「思い出」が中心ですが、この記事を讀まれた、地元の方々から「読んだよ」とか「懐かしい写真を見せました」という感想をいただきました。

◇中川二小の写真展 上

山市図書館では、この夏の廃校になった小中学校の校舍写真や文集を展示していただきました。懐かし

い、蔵王分校の校舎を見ることが、教室の軒下には「ぼんだら(つらら)が沢山下がった写真でした。金森先生夫妻が昇降口前で並んで写っていました。私は、昌江先生から1年の時教えてもらった生徒です。

(高橋記)

編集後記

◇残暑お見舞い申し上げます。今年の夏は、いつもより暑かったです。そんな猛暑の合間をぬって原稿を寄稿していただいた皆様に心より感謝しています。ありがとうございます。

◇理事長は、「蔵王鉱山は誰のもの?で、製錬場の跡地に組合事務所を建設するかどうか、という段階に入ります。

(高橋記)